

けんか しなのくに せいじい 50しゅうねん
県歌「信濃の国」制定50周年⑥

「信濃の国」が県の歌である県歌に決まっていたから、今年でちょうど50年！今回は最後の六番です。今では新幹線であつという間に東京に行けますが、当時は大変だったのです。夢を運んだ鉄道のように一生懸命に進もうとみんなを励ましています。

＜意味＞



「信濃の国」を作詞した浅井列先生の旧居跡（長野市妻科）

＜六番＞

あずま 日本武
 吾妻はやとし
 なげ 碓氷山
 嘆き給いし
 うが トネル
 穿つ隧道二十六
 ゆめ 夢にもこゆる汽車の道
 みち 一筋に学びなば
 むかし 昔の人にや劣るべき
 いらい 古来山河の秀でたる
 国は偉人のある習い

日本武尊は長野県に入るとき碓氷山で、亡くなつた妻のことを思い出して嘆いたと言われています。その碓氷山（軽井沢・横川間）には、信越線の開通のために26ものトンネルが掘られ、蒸気機関車で山を越えることができるようになったと夢のようなことです。汽車が一つの線路をひたすら走るように一生懸命に勉強に励めば、昔の人より劣るはずはないのです。なぜなら昔から、美しい山や川などの自然に囲まれた長野県では、すばらしい人物が育っているからです。



「信濃の国」は、県外に住む長野県出身の人が集まると必ず歌うそつです。心を一つにする県歌なのです。意味や歴史も考えて、大切に歌っていきましよう。

作成：長野県教育委員会教学指導課・企画振興部広報県民課

* 学年だより等でこのまま紹介することも可能です。